

カトリック香里教会 聖木曜日・主の晩餐の夕べのミサ 2021年4月1日

(イエスは) 食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。-中略-「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」 -ヨハネ 13 章-

謙遜のちから

今日、私たちはイエスが弟子たちの足を洗われたことを覚えています。イエスは弟子たちに、「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい」と言われます。全身浴は洗礼を指します。足の洗浄は、私たちの魂に解放と解放をもたらす洗足後の浄化を指します。カトリック教徒としての私たちにとって、和解の秘跡は洗礼後の浄化です。これは、私たちが神に対して罪を犯したときに神と和解するのに役立つため、非常に重要です。逃げ出した子供たちが両親に連れ戻されるようなものです。彼らがどれほど幸せか想像できません。

しかし、それは今日の福音だけではありません。それから私たちがまだ学ぶことができることがもっとあります。伝道者ヨハネは、イエスは「父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと」を完全に知っていたと語っています。イエスは与えられた力を使って敵を打ち負かしますか？絶対にありません。彼は自分の力を使って奉仕した。イエスが「食事の席から立ち上がる」のは、誇りを持って他の人に仕えられるのではなく、逆に他の人に仕えるためです。イエスは、「人の子が仕えられるためではなく、仕えるために来た」(マタイ 20:28)と言われたとおりに生きました。それが謙遜の力です。

イエスは弟子たちの足を上げて洗うことで弟子たちを驚かせました。それは私たちの世界で通常、力が使用される方法ではありません。国は国を支配します。ある民族グループがライバルを一掃します。ある宗教は他の宗教よりも優位であると宣言しています。一部の親は、言葉と例によって、子供たちにどんな犠牲を払っても成功するように教えます。または最近のミャンマーで武力を使用している軍隊。一部の国、組織、宗教、個人が権力を握るとき、他のグループは身震いし、従わなければならないようです。しかし、力を持つことは必ずしも悪いことではなく、今日の福音は、他の人の利益のために、そして他の人のために力をどのように使うかの一例です。イエスはかつて、「あなたがたのうちで、一番偉い人は、使える者になりなさい」と言われました(マタイ 23:12)。

イエスは彼らの足を洗った後、弟子たちに「あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。私があるあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである」と言います。イエスは私たちに謙遜に生き、周りの人々の世話をするように勧めておられます。もう一度、愛する父のところに戻って、謙虚に暮らしましょう。

「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」